



居合道だより

巻 頭 言

居合道部 理事長 國方 孝之

会員の皆様におかれましては、日々の稽古に精進されていることとお慶び申し上げます。
去る七月に発生いたしました熊本地方を震源とする地震により、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧・復興と、皆様が再び穏やかな日々を取り戻されますよう、祈念申し上げます。

さて、全国的に酷暑が続いており、道場におきましては連日厳しい暑さの中での稽古となっております。

特に集中して稽古に取り組む中で、知らず知らずのうちに水分や体力が失われがちです。
会員の皆様におかれましては、こまめな水分・塩分補給を徹底し、無理をせず十分な休憩を挟むなど、熱中症対策に万全を期して稽古に励んでいただきますようお願い申し上げます。
体調に異変を感じた際は、決して我慢せず速やかに稽古を中断するよう心がけましょう。

私事で恐縮ですが先般引っ越しして以来、時間を見つけては居合道の資料整理をしておりますと、私がまだ駆け出しであった頃に拝受した幕末の剣術・兵法家として知られる窪田清音（くぼた すがね / 1791～1866）の剣法強弱論の一部のプリント資料が出てまいりました。

窪田清音は江戸時代末期の旗本であり、居合（田宮流）、剣術をはじめ弓術・槍術・砲術など多様な武芸に通じた稀代の兵法家です。幕府の武芸訓練機関である「講武所」の頭取格を務め、幕末の名剣士としても名高く、武道の普及と技術の体系化に多大な貢献を果たした人物です。

私自身改めて読み返すと共に、この資料の一端を皆様にも共有し、先人の教えに触れる機会とさせていただければと存じます。先人が遺した教えや武道の歴史に触れることは自らの技と心を磨くうえで大きな道標となるのではないのでしょうか。この厳しい夏を安全第一で乗り切り、お互いに一層精進していきましょう。



窪田清音（1791-1866）
講武所頭取・兵学者・吉富流居合伝承者
出典：Wikimedia Commons（Public Domain）

【窪田清音 著 剣法強弱論の中の一部】

手裏を堅く握り多く力を用いるときは切れ難く、又手裏緩くして肅らざるは同じく切れ難く

又手の伸びたるも縮みたるも又伸ぶるに過ぐるも共に切れ難く

又右に力用いること強く肩より差したるも切れ難し

又足幅の広きは切れ難し、又左を斜に踏み過ぎたるは切れ難し

又左右共に足に力をこめて踏みたるは切れ難し

又形の前かがりに過ぎたるも反りたるも切れ難く

又心治らず気の荒みたるも、又後れ心ありて打ちたるも切れ難し

又心の怠り気の憊むも同じ、又面の歪みたるも仰ぎたるも俯したるも共に同じ

又声なきも声低きも切れ難く、又自力を尽くして強く見るときは切れ難し

又作用の方、氣に後るときも先きだつときも切れ難し

又大刀、刀を下すに筋を違へたるは切れ難し

而して突くべき業も之に倣ひいて概して知るべし 是等の類皆刃業を妨ぐるの難にして、其の
他なほ種々の事に牽かれたとへ心を盡して刀を選び且、力を極めて之を打っても全く刃業を
現し難きこと多かるべし、加之みだりに力を用いて打つ時は、或は刀を歪め、或は刀を折ること
なきに非ず、是れ己れの身に疵ありて爲すことなれば刀の咎に非ずして其の人の力足らざるなり

〈現代語訳〉

刀を握る手に力を入れすぎて強く握ると、刀はよく切れない。

反対に、手の内が緩すぎて締まりがない場合も、同じようによく切れない。

また、腕が伸び切っていても、縮こまり過ぎていても、

あるいは必要以上に伸ばし過ぎてても、やはりよく切れない。

また、右手ばかりに力を入れ、肩から押し込むように振り下ろしても、よく切れない。

また、足幅が広すぎてても切れない。左足を斜めに踏み込み過ぎてても切れない。

左右両足に力を込めて踏み締め過ぎてても、よく切れない。

姿勢が前かがみになり過ぎてても、反り返り過ぎてても、よく切れない。

心が落ち着かず気持ちが荒れているときも、また相手に遅れまいと焦る気持ちで打っても、よく切れない。

反対に、気持ちが緩み、気力が衰えている場合も同様である。

また、顔がゆがんでいたり、上を向き過ぎたり、下を向き過ぎたりしても、やはりよく切れない。

気合がまったくない場合も、気合が弱々しい場合も、よく切れない。

また、自分の力だけに頼って、力任せに切ろうとすると、やはり切れない。

刀を働かせるタイミングが氣と一致せず、氣より遅れても、反対に氣より先走っても、よく切れない。

さらに、大刀を振り下ろす際に刀筋が狂っていると、よく切れない。

突きを行う技についても、これらと同じことが当てはまると考えればよい。

以上のようなことは、すべて刀の切れ味（刃業）の働きを妨げる原因である。

そのほかにも、さまざまなことに心を乱され、たとえ十分に注意して刀を選び、力を尽くして斬ったとしても、
本来の切れ味を発揮できないことは少なくない。

さらに、むやみに力を入れて斬ると、刀を曲げたり、あるいは折ってしまうことさえある。

しかし、それは自分自身に欠点があるために起こることであって、刀の責任ではない。

その人の技量が不足しているのである。

居合の道標 ①**形稽古、居合と組太刀は車の両輪**

～居合をより深く・広く理解するための組太刀のすすめ～

夢想神傳重信流 教士八段 川路 俊 博

道場では全剣連居合と古流の稽古を、さらに組太刀も稽古する道場もありましょう。組太刀稽古は剣術・居合の技術を実践的に学ぶための重要な稽古の仕組みであります。相手と剣を交えて間合や攻防の理合い、刀の繰法などの形と精神を学びます。

形稽古について国際武道大学の田中守教授の言を借りれば「形を学ぶということは、その事に止まらず、時間・空間を超えて流祖の直接の弟子として修行することでもある。よってその形は学ぶ者と流祖を直接結ぶ一本の絆ともいえよう。それ故、古流の形は文化としての価値を有するのである。」となります。

剣道は直接的対人動作であるのに対して、居合は仮想的対人動作であり形式美に流れやすくなります。外見上の美的要素を取入れた誇張した居合、敵の居ない舞踊化した居合になりがちですがこれを補完するものが組太刀と言えます。

重信流では太刀打之業（剣術）と詰合（居合・剣術）の組太刀があります。気攻め・体攻め、間と間合い、足の踏み方と腰構え、運剣などを体得します。稽古を積み錬磨します。居合は組太刀を持って完成するとも云われる所以です。

組太刀稽古は技の合理性・理合いが分かります。剣道家は、日本剣道形の稽古は必須です。居合を学ぶ剣士もせめて、相手と剣を交える日本剣道形は身に付けたいです。そして機会があれば組太刀の稽古も試みて下さい。

一足一刀の間合で対峙した時、詰合って対座した時の刀繰法・体捌きが認識できれば、居合への根本的な取り組みのステージが上がり、視野が広がり居合（道）が深みを増すと考えます。また、武道界では生涯剣道（居合道）とよくいわれます。組太刀の稽古は歳を重ねても可能であり、心の鍛錬と健康維持にも適した武道でもありましょう。



武徳殿 奉納演武(詰合)

道場紹介 ①

「夢想神傳重信流 滴水塾」
てき すい じゆく

重信流滴水塾は、居合道の夢想神傳重信流を学ぶ道場です。当流は抜刀術の流祖林崎甚助重信公から連綿と相伝されている五百有余年の歴史を持つ古武道の流派です。重信流には「袈裟の一太刀」のご神託が伝え残されており、一門はこのご神託を居合の大精神として、厳正なる刀法の錬磨や体捌きの運用を学んでいます。

◆ 当会について ◆

堺彪先生（大阪在住）が退職後に、郷里福岡市にて平成12年に重信流滴水塾を開かれたのを嚆矢とします。直門の縄田房照先生とともに活動が始まり、平成16年には同門の川路俊博先生（東京在住）が退職・帰省され共に稽古に励み、また斯界活動を推し進めました。爾来今日まで一貫して夢想神傳重信流の真理・正技の伝承に力を注いでいます。

当流は居合道の修行を通じて、武道の精神（礼法・心構えなど）を深く理解し実践するための道場でもあります。古流のほかに全日本剣道連盟居合も稽古しており、門人は各地の居合道大会で活躍しています。

◆ 道場名の由来 ◆

禅語に「曹源の一滴水（曹源：曹溪の源泉）」という言葉があります。禅宗における正統な教えをさす言葉です。始祖達磨大師から続いてきた禅の流れが六祖慧能禅師によって大成し、以後禅匠たちによって分化発展して日本にも伝えられ現在に至っております。この源を探れば、すべて「曹溪（六祖慧能）」の一滴水から流れ流れきたものにほかなりません。故に転じて禅の根本を「曹源の一滴水」といわれます。

我が道場もこの精神に学び、居合本流の抜刀術の大精神に則り、流意に添った正統真理・心持ち・刀法を確実に修練し、もって健全な人間形成を目指すべく「滴水塾」と名付けられました。

◆ 指導の先生方 ◆



堺 彪 先生
居合道教士七段



川路 俊博 先生
福岡県剣道連盟居合道部 顧問
居合道教士八段



〈稽古風景〉
会員数18名
※令和8年9月現在



◆ 稽古場所・日時 ◆

①舞鶴中学校武道場

（福岡市中央区舞鶴 2-6-1）

【毎週 土曜日】19：00～21：30

②東若久小学校体育館

（福岡市南区若久 3-37-1）

【毎週 火曜日】19：30～22：00

教室によっては、稽古する日時や稽古できる人数が異なります。
見学などをご希望の方はお問い合わせください。

代表者 縄田 房照

会員の声 ①

～ 私と居合道～

居合道を始めたきっかけも、感じる魅力も、目指す目標も人それぞれです。「私と居合道」では、居合に熱心に取り組む会員の皆さんの、これまでの歩みや居合への思い、これからの目標などをご紹介します。

今回は、6月14日の「福岡県居合道大会」で第一位となった会員へ寄稿をお願いしました。

「油断は禁物」

宗像居合道同好会 しば た ち あき
柴田千照さん

私が居合道を始めて印象に残っている出来事は、2025年に行われた福岡県居合道大会でのことです。この大会が私が初めて出場した大会でした。



初出場で決勝までいけた安心感があり、大事な決勝戦で油断して致命的な三入をしてしまいました。結果は2位で、その時私は「やってしまった…」と落ち込み、次の大会は絶対に油断しないで緊張感を持って取り組もうと強く思いました。そのために日々の稽古の中で、本番で緊張しても間違わないようにたくさん練習して、注意されたところを体が覚えるように意識して稽古するようにしました。

その後出場した大会で、初めて少年の部で優勝しました。人生で初めてのことであったのでとても喜びました。この大会で優勝したことで、日々の稽古に真剣に打ち込むことがどれだけ大切なのかわかりました。これからも稽古に真剣に取り組む、自分の居合道を追求していきたいと思います。



会員の声 ②

～ 私と居合道 ～

「日常から自分を切り離せる」

尚武会 ^や ^{しま} ^{なる} ^み
八島成美さん

「居合をやっている」と人に言えば驚かれ、始めた理由を尋ねられるのは居合道のあるあるではないでしょうか。

私が居合道を始めたきっかけは、実に単純です。

ずっとデスクワークだったので、運動不足を解消したかったこと。

刀が好きで「刀を自分で振ってみたい」と思ったこと。

中学生の頃に少しだけ剣道をしていて、剣道形が楽しかった記憶もありました。



そんな軽い気持ちで始めた居合道が、気づけば一年続き、先日の県大会では思いがけず無段の部で優勝することができました。

普通ならその大会の記憶が一番残っていそうなものですが、実は一番印象に残っているのは、一級審査の時のことです。

座って順番を待っているだけで下緒の扱いが頭から吹き飛んでしまうほど、人生で一番緊張しました。

あれほど緊張したのも、日々の稽古に真剣に取り組んでいたからだろうか、今では笑える良い思い出です。

好奇心旺盛な反面、なかなか物事が長続きしない私ですが、一年続けられた居合の魅力の一つに「日常から自分を切り離せること」があると感じています。

仕事など日常で嫌なことがあっても、稽古が始まれば、身体、視線、刀の角度、刃の向き……と、自分の身体と刀に注意を向けることになります。

すると無意識のうちに余計なことが頭から抜けていくので、居合の稽古は頭の中を切り替えることのできる貴重な時間となっています。

ただ、居合はやればやるほど奥深く、自分の思い描く居合と、今の自分の技術との乖離に途方に暮れることもあります。

それでも最近は「教わったことを一つずつ積み重ねるしかないな」と開き直り、稽古に励んでいます。

もし、居合道に興味を持ってこのページにたどり着いた方がいらっしゃれば「刀を振ってみたい」と思った、それだけでも始める理由としては十分だと思います。

私も、そこから始めました。

まだまだこれからの身ですので、皆さんと一緒に成長していけたらと思います。

思い立ったが吉日。ぜひ一度、稽古を覗いてみてください。

会員の声 ③

～ 私と居合道 ～

「真剣にやる」ということ

北九州居合道同好会 筑紫野支部 ^{もり}森 ^{はな}英 ^こ子 さん

【居合道を始めたきっかけ】

私は、ライアー（竖琴）の演奏を生業としています。
ライアーは世界的にもまだ奏者がとても少なく、演奏者としてどう歩いていくのかを自分なりに模索してきました。



そんな中、2018年9月、筑紫野での演奏会を機にご縁をいただいた剣道教士七段の永野勝久先生から、日本刀の「真剣」と「真剣にやる」ことのつながりについて伺い、心に強く響くものがありました。

「真剣にやる」とはどういうことなのか。それを身をもって学びたいと思い、以来永野先生からは試し切りを、先生と親交のあった小田信秋先生からは2020年3月より居合道をご指導いただいています。

【稽古を通して学んだこと】

以前は、「真剣にやる」といえば、ただがむしゃらに取り組むことしか思い浮かびませんでした。稽古を重ねる中で、「身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ」という言葉を一つの軸に、「捨てること」にも目が向くようになりました。

今の私にとっての「捨てるもの」は二つあります。

一つは、「私が」と力むことです。

自分が何とかしようとするのではなく、一步下がり、刀本来の働きを邪魔しない。

もう一つは、すぐに「分かった」と思うことです。

自分が理解しやすい部分だけを抜き出して、早々に教え全体を分かったつもりにならず、今の自分には分からないことは分からないまま抱えておく。その覚悟を持って、先生が選ばれた言葉をそのまま受け取ることを大切にしたいと思っています。

【印象に残っている出来事や思い出】

県大会の団体戦が特に印象に残っています。これまで大将として5回出場し、ありがたいことに4度の優勝を経験させていただきました。

団体戦を通して、一つの目標に向かって皆で取り組むことに大きな充実感を覚え、先生方、剣友の皆様への感謝を改めて胸に刻みました。

これからも四段を目指して稽古を重ねるとともに、演奏者としても精進してまいります。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

会員の声 ④

～ 私と居合道～

私にとっての居合とは

飯塚居合道同好会 はら だ え り 原田 絵理 さん

「居合は武道である」「日本の伝統文化である」という言葉を、これまで幾度となく耳にしてきました。

人間形成の道とは何なのか。

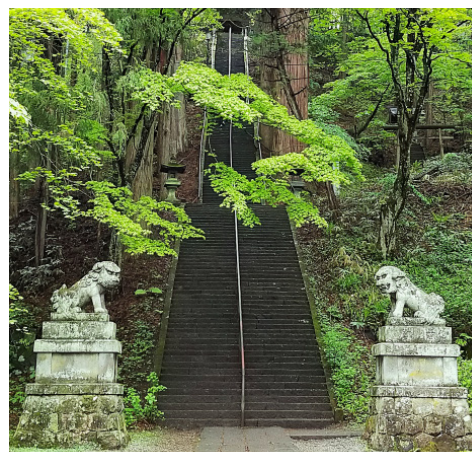
師匠とは何なのか。

道場とは何なのか。

稽古とは何なのか。

そして、自分にとっての居合とは何なのか。

最近、よく考えます。



幼少期より剣道に親しみ、礼節や作法、相手を敬う心、稽古に向き合う姿勢を学んできました。それでも、いまだ明確な答えは出せていません。

四段という道半ばの自分が答えを出すには、あまりにも早く、そして奥深い道なのだと思います。

今回、県大会でこのような成績を収めることができたのは、決して自分一人の力ではありません。ここまでご指導くださった師匠がいたからこそ得られた結果です。

そして、今こうして四段まで昇段させていただけていることも、師匠の教えがあったからこそだと思っています。

私にとって師匠とは、単に技を教えてくださいと存在ではありません。

師の言葉を素直に受け止め、自らの未熟さと向き合う中で、技とともに人としての在り方を学ばせていただく存在です。

私は、師弟関係において、性別や立場によってその本質が変わるものではないと思っています。師匠と弟子という関係は、単に同じ道場で稽古をする者同士というだけではなく、教えを受ける側が師を敬い、その言葉に耳を傾け、素直に受け止め、自らのものにしようと稽古を重ねる。その積み重ねの中で、少しずつ信頼関係が築かれていくものだと思います。

まず自分自身がその教えに真摯に向き合い、教えていただくことを当然と思わず、一言の教えに感謝する。教えを待つのではなく、教えをいただける自分であろうとする。自らの未熟さを知り、それでも一つずつ積み重ねていく。その過程こそが稽古であり、人間形成の道につながっていくのだと思います。

いつの日か私が居合の道を離れることがあったとしても、師匠をはじめ先生方からいただいた教えと、この道で出会った方々への感謝を忘れることはありません。

居合で学んだ礼節、謙虚さ、素直さ、そして自分自身と向き合う心を、その後の人生にも生かしていきたい。

今の私にとって居合とは、答えを得るためだけのものではなく、その答えを探しながら、自分自身を磨き続けていく道なのだと思います。

このたび、このように改めて居合と向き合う機会をいただいたこと、心より感謝申し上げます。

ひとくちコラム ①

～真剣・模擬刀の取り扱いについて～

居合道部 相談役 迫 野 康 雄

我々が日頃の修練に使っている日本刀には登録証がついています。所有する人(使っている人)と登録しているの名義が違っている場合があります。例えば、祖父が所持していたのを譲り受けたとか、師匠から譲り受けた、又は会員から購入したとき名義変更届をしなければなりません。これは譲り受けたひとが名義変更手続き知らなかったか、放念されていたからです。登録証に記載している教育委員会に名義変更届を提出して下さい。手続きは難しくありません。正式な用紙ありませんので先輩方に教えて頂いて登録証に記載の教育委員会に郵送すれば良いのです。なお教育委員会からは受け取ったという返事はありません。

保管管理には十分に気を付けて下さい、もし盗難にあった場合は最寄りの交番や警察署へすぐに届出してください。何故

ならば不幸にも盗難された刀で事故、事件が起きた場合は盗難届時間、日時では大変な事となりますので安全管理は怠りなくしてください。

居合道では、原則として日本刀で稽古する。全日本剣道連盟の居合道試合にあっても鍛錬され十分な品位を備えた日本刀すなわち真剣を使用する旨定められています。玉鋼を使用し古来の製法で鍛えられた刀以外の刀は登録不可となり教育委員会から刀として認められません。こういった刀は居合道の稽古又は試合には使えません。当然ながら登録証のある刀でも怪我があった場合、怪我の状態によりますが、問題になりますので気を付けてください。

次に模擬刀ですが、模擬刀の登場で居合道界が大いに発展し今日の隆盛に至っています。しかし模擬刀は生涯使えるもので

ありません。必ず破損します。経年劣化している場合、素振りをするだけで折れて飛んで怪我をさせてしまうことがあります。公共の施設を利用している団体の皆様方は真剣、模擬等刀に限らず、施設内での怪我には個人個人充分気配り注意していただきたいと思います、そして初期の目的の居合道修練の上達に頑張ってください。

稽古場以外のスペースでは刀を振らない、屋内通路や屋外では必ず刀は刀袋に入れて持ち歩くといったことも居合道の礼儀作法でありますので十分気を付けて有意義な居合道活動をして頂きたいと思っています。

【参考資料】

居合道における日本刀
及び模擬刀の取扱要領
(全日本剣道連盟)



『剣道・居合道は剣の理法の修練による人間形成の道である。』 肝に銘じてがんばりましょう。

事務局よりお知らせ

2026年度 居合道初心者体験教室が始まります!

受入道場の方は配布の「受入の手順」(アテンドマニュアル)をご参照ください。

【体験期間】 9月から来年2月までの概ね6ヶ月間ですが、受付は7月からですので、お申し込み後はすぐにでも始められます。3月の級位審査会(受審は任意)で修了証と記念品をお渡しして教室は修了となります。

【費用】 約6ヶ月/6,000円(税込)

期間より早く始められても遅く始められても費用は変わりません。
途中でやめられる場合は返金することはできません。

【居合道衣などの道具について】

動きやすい服装でご参加できますが、刀と帯と膝当てが必要です。
(受入団体の方は、ご案内をお願いいたします。)

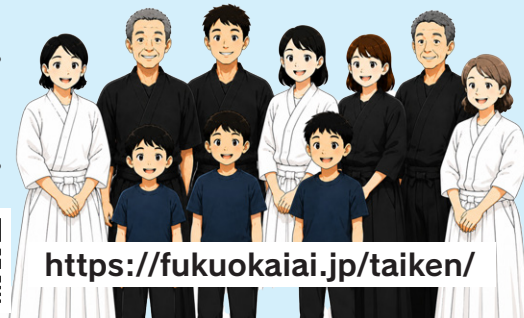
詳しくは公式サイトでご確認ください。

公式サイトは

またご不明な点は事務局へお問い合わせください。こちら



<https://fukuokaiai.jp/taiken/>



<9～11月の事業予定>

9月6日(日)	福岡県居合道段位審査会(級・初～五段)	福岡市総合体育館武道場
27日(日)	福岡県居合道伝達講習会	福岡武道館
10月3日(土)	第61回全日本居合道大会	東京武道館 足立区
18日(日)	地域稽古会	筑後
11月7日(土)	居合道七・六段位審査会	江戸川区
8日(日)	居合道八段審査会	江戸川区
15日(日)	福岡県居合道稽古・級審査会	福岡武道館
25日(水)	称号(教士・錬士)審査会 居合道	日本武道館